

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ＞

阿蘇山では、本日（24日）05時頃から火山性微動の振幅が大きくなっており、09時過ぎからはさらに大きくなりました。振幅は中岳西山腹観測点南北動の1分間平均振幅で一時的に15マイクロメートル毎秒を超え、09時40分過ぎからは急激に小さくなるなど変動を繰り返しています。

阿蘇山では火山活動がさらに高まっていることから、本日（24日）09時45分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルをレベル2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

### 【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。また、火山ガスに注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入りしないでください。

### ○ 活動概況

阿蘇山では、本日（24日）05時頃から火山性微動の振幅が大きくなっており、09時過ぎからはさらに大きくなりました。振幅は中岳西山腹観測点南北動の1分間平均振幅で一時的に15マイクロメートル毎秒を超え、09時40分過ぎからは急激に小さくなるなど変動を繰り返しています。

阿蘇山では火山活動がさらに高まっていることから、本日（24日）09時45分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルをレベル2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

噴煙等の表面現象に変化は認められません。中岳第一火口では、白色の噴煙が本日は最高で火口縁上600mまで上がっています。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、2月22日に実施した現地調査では、1,500トンと、2021年10月の噴火以前よりも多い状態が継続しています。

GNSS連続観測では、2021年9月頃からみられていた草千里付近の深部にあるマグマだまりの膨張を示すと考えられる基線の伸びは、12月頃から停滞しています。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/index.html>) や気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

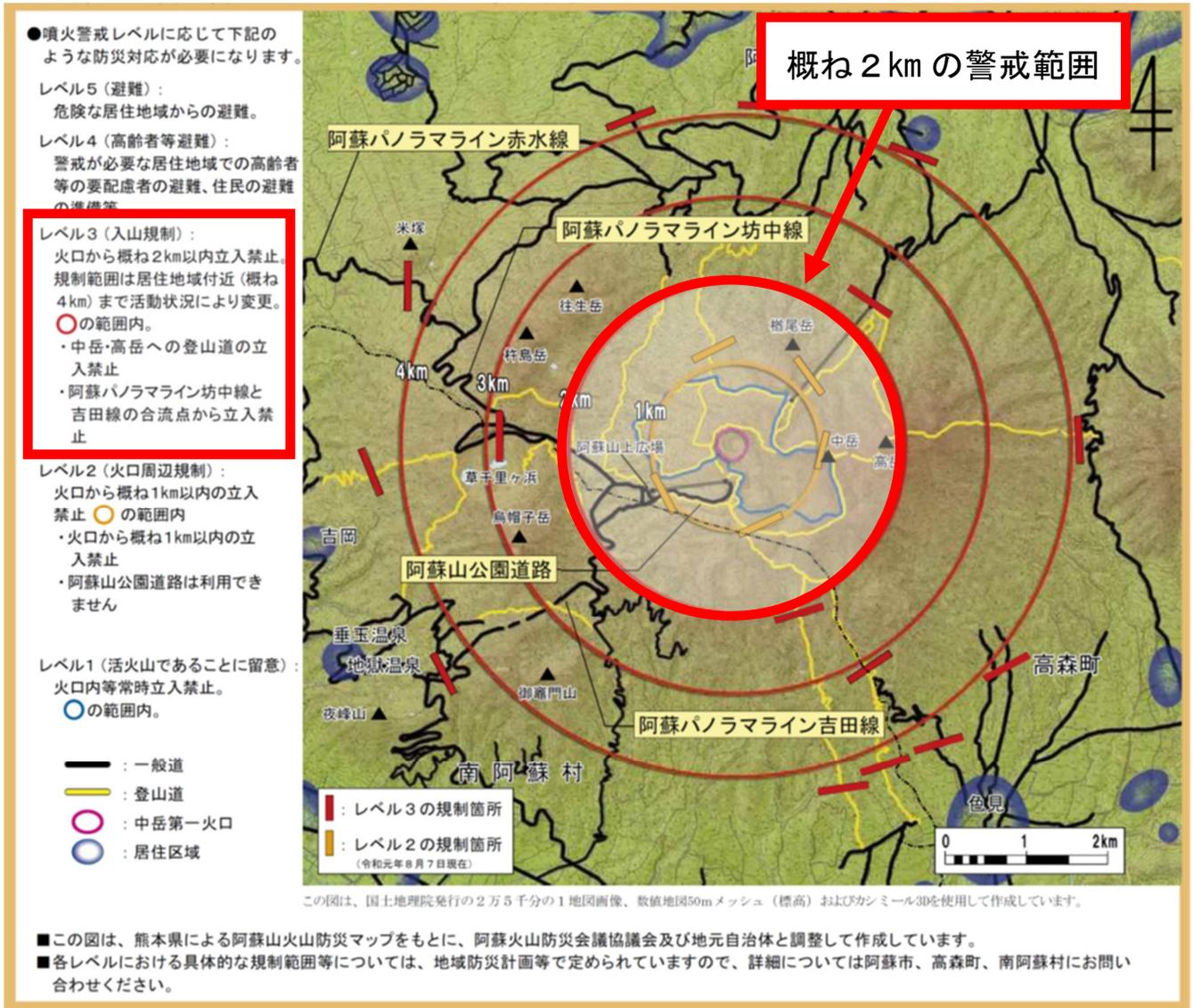


図1 阿蘇山 警戒が必要な範囲

中岳第一火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



図2 阿蘇山 火山性微動1分間平均振幅

(中岳西山腹観測点南北動成分、2月23日00時～24日10時頃)

本日(24日)05時頃から火山性微動の振幅が大きくなっており、09時過ぎからはさらに大きくなりました。振幅は中岳西山腹観測点南北動の1分間平均振幅で一時的に15マイクロメートル毎秒を超え、09時40分過ぎからは急激に小さくなるなど変動を繰り返しています。

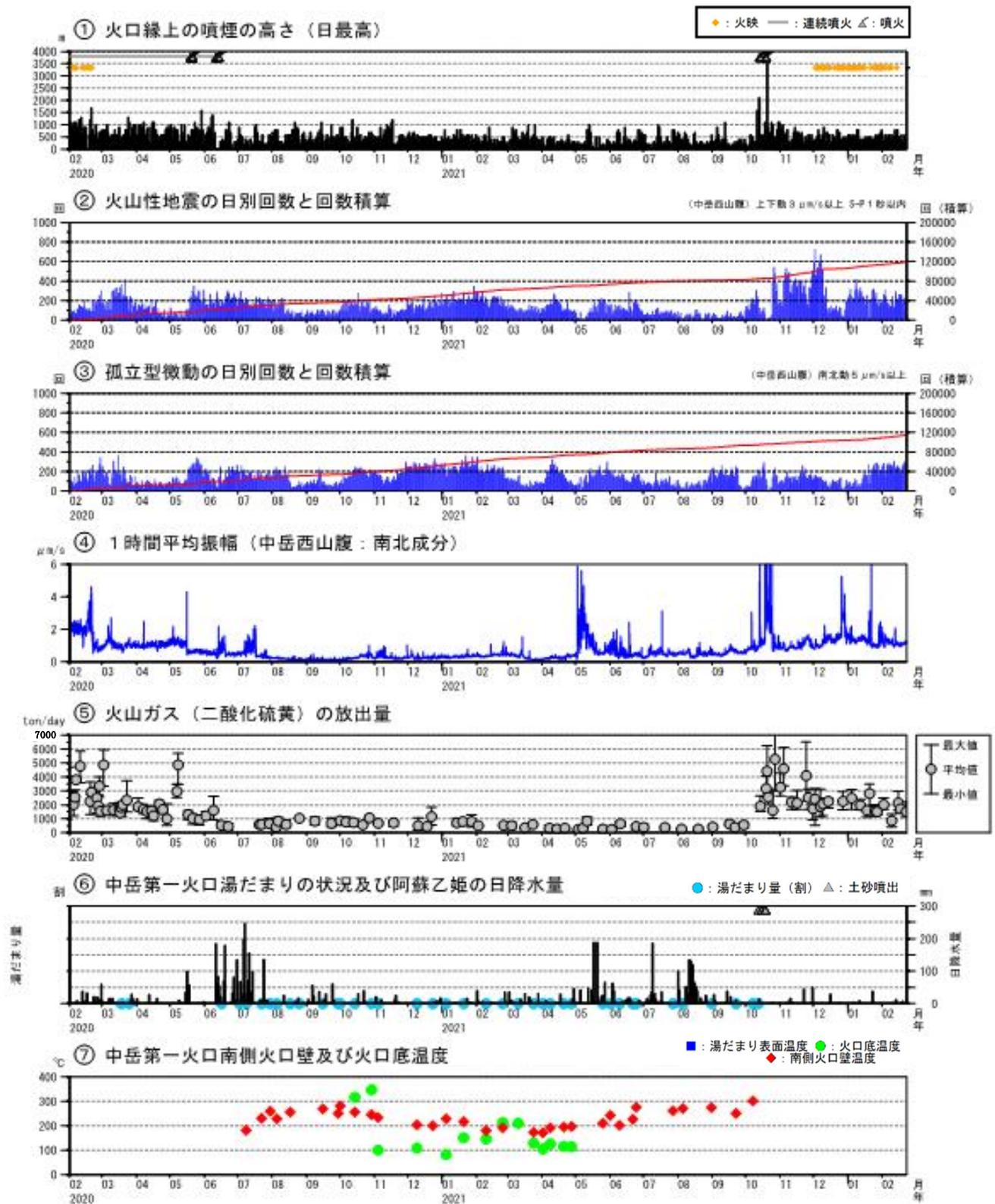


図3 阿蘇山 火山活動経過図（2020年2月～2022年2月24日10時（速報値））

- ②と③の赤線は回数の積算を示しています。
- ⑦の湯だまり温度等は赤外熱映像装置により計測しています。

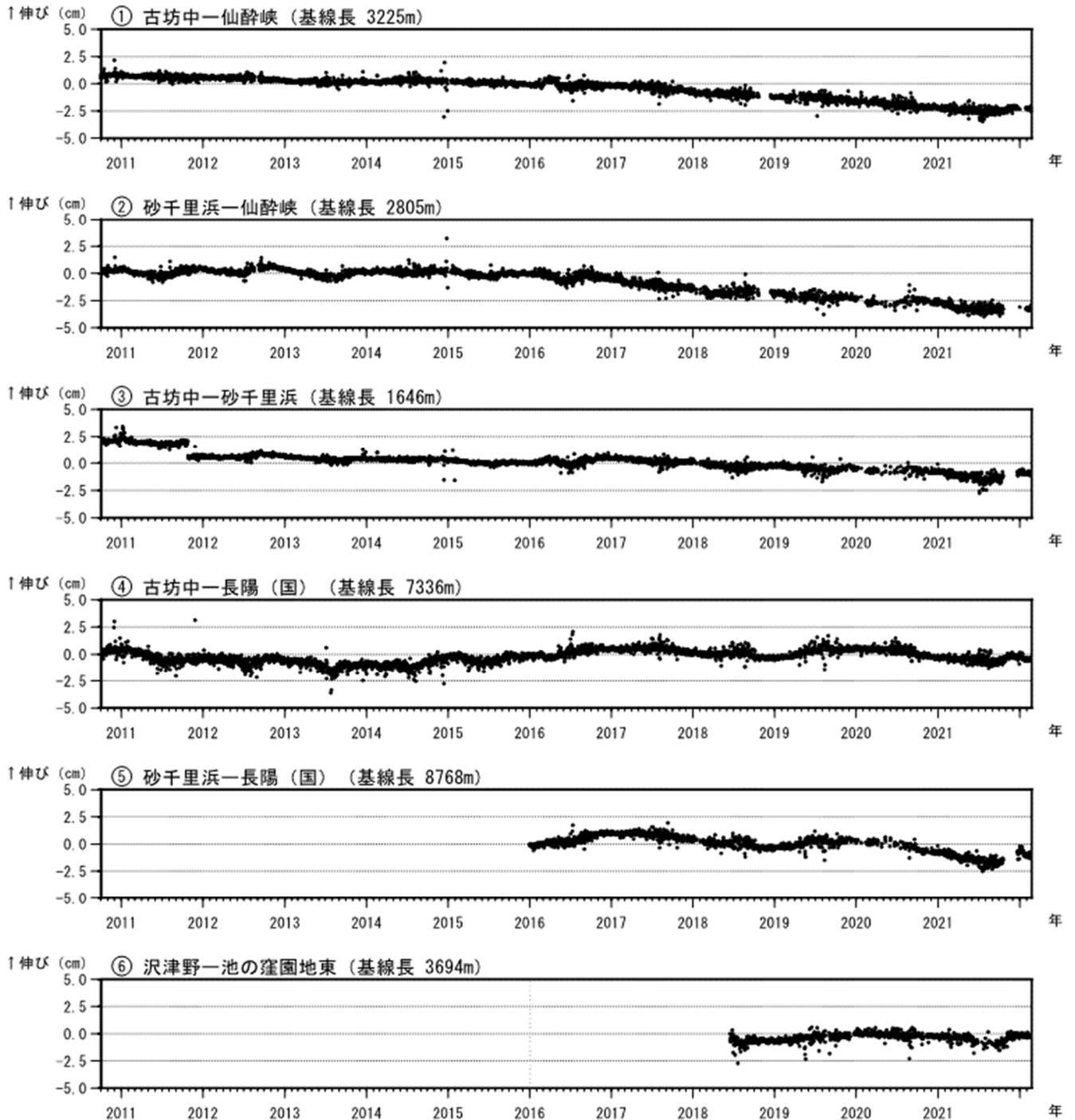


図4 阿蘇山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010年10月～2022年2月23日)

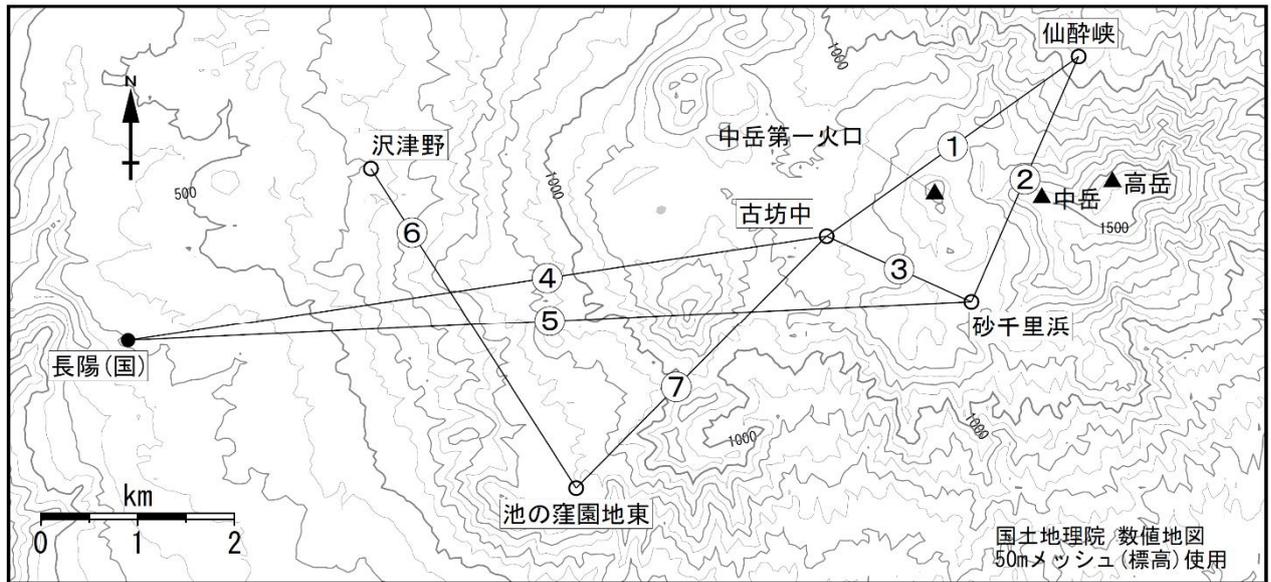
GNSS 連続観測では、2021年9月頃からみられていた草千里付近の深部にあるマグマだまりの膨張を示すと考えられる基線の伸びは、12月頃から停滞しています。

これらの基線は図5の①～⑥に対応しています。基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

(国)：国土地理院



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国)：国土地理院

図5 阿蘇山 GNSS 連続観測点と基線番号

